

作者プロフィール

袖木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

九鬼山ーリニアモーターカーとの出会いー



田野倉から仰ぐ九鬼山

2月下旬、中央線沿線の山、九鬼山(970m)に出かけた。何のことはない、「九鬼」というオドロオドロしい名前に惹かれての気紛れ登山である。山梨県指定の「秀麗富士十二景」の中の一山ではあるが、結局「九鬼」なる名前の由来は、分からず仕舞いだった。

9時15分、富士急行線の禾生駅出発。国道139号を大月方向に10分程で落合橋を渡った所で国道を外れ、古めかしい煉瓦造りの水路橋の下を潜り、愛宕神社の脇から登山道が始まる。アカマツ林の中、カサコソと落ち葉を踏んでのなかなか風情ある登山道である。

10時15分、ゆったりとした尾根上に出て一休み。目の下に、リニア実験線が一直線に伸びているのが見える。しばらく待って見たが、行き当たりばったりではリニアカー通過に行き合う幸運に巡り合える筈もなかった。

ここで登路は、尾根上を90度右に向きを変える。間もなく、鉄砲登りとか言う標高差100m余のとんでもない急登になる。大汗をかいて11時15分、やっと富士見平に到着した。九鬼山の南西の肩にあたるこの場所は、眺望が



富士見平からの富士山

素晴らしい。富士山を中心に、三ツ峠や杓子岳などがズラッと並んで見えた。

11時20分九鬼山山頂到着。この山頂は木立に囲まれ、あまり展望はない。西に若干の展望が開け、お隣り組の高畑山、倉岳山が見える程度。10分程の頂上滞在で下山の途に就いた。



九鬼山山頂

山頂から北東方向に下りる。先ず岩場の

急下降を、垂らされたロープにすがって下りる。次いで、アカマツの林の中、ゆったりとした尾根道の下りとなる。程なく都留・大月両市の境界尾根となり12時、紺屋休場という小広場に出て、30分の昼食休憩にした。

昼食後は、稜線頂から左に外れ緩やかに札金沢の中に下って行く。あっけなく林道に到達し、後は何の変哲もない林道を、沢の水音を聞きながら下る。

田野倉集落の外れ、リニア線の高架部が正面に見える場所で、最後の休憩を取った。13時半頃、一瞬ウォンと



リニア実験線

という音でハッと目を上げたら、リニアカーが通過した直後。お互い「見えた」「見えなかった」とヒトシキリ会話が弾んだ。田野倉駅到着は13時45分。